

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百十五)

第五章：二つのこよみ(西暦とヒジュラ暦) (一)

百十五 西暦に侵食されるヒジュラ暦(一―四)



イスラームの世界ではイスラームの暦(ヒジュラ暦)が今も生活の隅々に浸透し、市民の生活の歯車となつている。ヒジュラは預言者ムハンマドが、マッカからマデイナに移住したことを意味しており日本語では「聖遷」と訳されている。この聖遷があつた年がヒジュラ暦の始まりであり、西暦六百二十二年七月十六日がヒジュラ元年一月一日である。

ヒジュラ暦は新月から次の新月までの二十九日または三十日を一月とし、十二か月を一年間とする純粹の太陰暦である。これに対して世界で使われているグレゴリオ暦(西暦)は太陽の動きをもとに、一年間を三百六十五日或いは三百六十六日とし、それを十二で割つた数値を一月としている。したがってヒジュラ暦は西暦に比べ一年間の日数が十日ないし十二日短い。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakarazuyal@gmail.com](mailto:Arehakarazuyal@gmail.com)